

# 宮崎県都城市下長飯方言の否定の表現

岸江信介

## I. はじめに

1. 調査対象地：都城市は、宮崎県の南西部の盆地に位置し、宮崎市内からは車で約45分、約50kmほどの距離である。同市は、島津荘起源の地であり、江戸時代、島津藩の領地であった。主産業は、農業・畜産業が主で、甘藷・薩摩芋の生産の他、米作が盛ん（県内市町村中第一位）である。世帯数は45,700世帯、人口130,153人（いずれも平成7年3月現在）である。

なお、同市下長飯町は、都城市役所（同市姫城町）の真南にあり、バスで7～8分のところに位置する。

2. 調査年月日：1995年6月4日 午後3時～4時30分（話者①）

1995年7月2日 午後4時～5時（話者②）

1995年8月31日 午後4時～5時（話者③）

3. 話者：①坂元 静（男性） 明治41年7月16日（88歳）

：②小牟田 実（男性） 明治31年9月24日（97歳）

：③鶴木高宣（男性） 昭和52年2月 3日（18歳）

なお、小牟田実氏は、下長飯町から約3kmほど離れた都城旧市街地の宮丸町の方で、ここでは、坂元氏の回答を主に扱うことにした。また、若年層の回答は、鶴木高宣君（姫城町）によった。

4. 調査者・調査場所：岸江信介、話者宅

5. 調査方法：統一調査票による質問調査。

6. その他：当地は、いわゆる尾高一型アクセント地域であるが、今回の調査で得られた文アクセントも記述する。表記は、上昇位置を「」、下降位置を<sup>1</sup>で示した。

## II. 調査結果

1. 行かない ①アメヤ「ー<sup>1</sup> フリソージャガ「チ<sup>1</sup> キョー「ワ<sup>1</sup> ドキ「モ<sup>1</sup>  
イ「カ<sup>1</sup>ン 「ヨ。＜全＞／②アメ「ガ<sup>1</sup> フル「ゴ<sup>1</sup> タイカ「イ<sup>1</sup> キョー  
「ワ<sup>1</sup> ドキ「モ<sup>1</sup> イ「カ<sup>1</sup>ン 「ド。＜老＞

\*文末詞は、「ド」を用いることが多いが、若年層ではあまり用いられなくなってきている。都城のアクセントは、尾高一型アクセントとして有名だが、例えば、イカン、フランというように語末ガン（その他、独立性の弱い拍）の場合、アクセントの山が一つ前に来る。従って、フ「ラ<sup>1</sup>ン、イ「カ<sup>1</sup>ン。但し、疑問のイントネがかかる場合、音調はフラ「ン、カカ「ンとなる。意味は「降るか？」「書くか？」という問いかけになる。

2. 降らないよ ○キョー「ワ」 アメ「ャ」 フ「ラ」ン 「ド。〈老〉・〈多〉  
\* フランという形式、打ち消しの助動詞は「ン」が一般的である。
3. 行きません ○キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①イッ「モ」ハン 「ド。〈老〉②イ  
キモー「サ」ン。〈老〉}  
\* 両形式とも共に老年層に限られる。イキモーサンの方がより丁寧な形式である。な  
お、これらの形式は鹿児島方言で一般的である。
4. 行きはしない ①キョー「ワ」 ドキ「モ」 イ「キャ」セン。〈老〉②キョー「ワ  
」 ドコ「モ」 イ「カ」ン。〈全〉・〈多〉
5. いらっしゃらない ○シェンシェー「ワ」 ドキ「モ」 {①イッキャ「ハ」ン。〈  
老〉 ②イッキャ「ラ」ン。〈老〉}  
\* ①より②の方がより丁寧な形式。
6. 行かなかった ○キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①イカンジャツ「タ。〈老〉②イカ  
ンカッ「タ。〈若〉}  
\* 「いらっしゃらなかった」は、イッキャ「ラ」ンカッタ。(目上に対して)  
～ジャッタと～カッタとで、老若の対立が認められる。
7. 行きはしなかった ○キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①イカンジャツ「タ。〈多〉・  
〈全年層〉②イカンカッ「タ。〈多〉・〈若〉③イカー 「セン」ジャツ「タ。  
〈全〉・〈多〉・〈誘導〉③イカ「セ」ンカッ「タ。〈若〉}  
\* ①の形式が最もよく用いられる形式で、②・③はほぼ若年層に限定される。誘導で  
確かめたことだが、老年層で「行きはしない」に当たるイカーセンの使用もある。
8. 行くまい ○アメ「ガ」 フリソーチャ「カイ」 キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①  
イキ「メ。〈老〉②イッ「メ。〈老〉③イ「カ」ンジャロ。〈全〉④イ「カ」ン  
ヤロ。〈若〉}  
\* ②は①の形式の变化形。②では、声門閉鎖音が現れる。当地では、一般的に②が多  
用される。「まい」はメの形で現れる。③・④は若年層で併用されるが、④の方を  
多用する。
9. 出まい ○アメ「ガ」 フリソーチャ「カイ」 キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①  
デー「メ。〈老〉②「デン」ヤロ。〈若〉・〈多〉③デ「ラ」ンヤロ。〈若〉・  
〈多〉}  
\* ①と②・③とは明瞭な世代対立がある。②と③では若年層の内省で、意味上、差が  
ある。②の方が③に比べ、「出ない」可能性が強いということ。デーメは「出まい」  
に当たる。
10. 何もすまい ○キョー「ワ」 ナン「モ」 {①セン「ド。〈若〉・〈多〉②スイ「メ。  
〈老〉・〈少〉③「セン」ヤロ。〈若〉・〈多〉}  
\* 若年層では「すまい・するまい」に当たる形式(スイメ)を用いることがほとんど

ない。

- 1 1. 降らないだろう ○キョー「ワ」 アメ「ャ」 {①フラン「ジャ」イメ 「カイ」ネ。<老>②フィ「メ」。<老>③フ「ラ」ンジャ「ロ」。<全>④フ「ラ」ンヤロ。<若>・<多>}

\* 老年層では「降るまい」に当たる形式(フィメ)を用いることが多く、若年層では、フランジャロ、フランヤロの使用が多い。

- 1 2. 降るにちがいない ①キョー「ワ」 モー アメ「ガ」 フッ「ド」。<全>・<多>/②フ「ル」ッチャ ネ。<若>・<多>

\* 全年層で①の形式が多用される。

- 1 3. 来ない ○キョー「ワ」 ダイ「モ」 {①「コ」ン。<全>・<多>②キワセン「ガ」。<少>・<老>}

\* 一般的に「来ない」と、次の「来はしない」との使い分けはないようである。ただし、コンとキワセンとには、世代差が認められる。

- 1 4. 来はしない ○キョー「ワ」 ダイ「モ」 {①キワ「セン」。<老>②コン「ド」。<多>・<全>}

\* 意味上、両者の形式の使い分けは見当たらないが、上述したように、世代差が認められる。

- 1 5. 来なかった ○キョー「ワ」 ダイ「モ」 {①コンジャッ「タ」。②キヤランジャ「タ」。<尊敬>③ミエンジャッ「タ」。<上品>④コンカッ「タ」。<若>・<多>}

\* ①は、最もよく用いられる形式。老年層では、②は目上に、①は同等もしくは目下という使い分け意識がはっきりしている。③は、共通語意識の下での回答か?

- 1 6. 見ない ○キョー「ワ」 ダイ「モ」 {①「ミ」ン。<少>} ②ミ「ラ」ン ガ「ネ」。<全>・<多>}

\* ミンが使われないこともないが、圧倒的にミランの使用が多い。

- 1 7. 居ない ○キョー「ワ」 ダイ「モ」 オ「ラ」ン。<全>・<多>

\* 「居なかった」は、若年層で「オン」カッタ。

- 1 8. 行かずに ①ドキ「モ」 イカ「ジ」 ウ「チ」 オッ「ド」。<多>・<全>/②ドコ「モ」 イカン「デ」 ウ「チ」 オッ「ド」<若>・<多>。

\* 「ずに」に当たるジが老年層において認められる。若年層では普通②を使用する。

- 1 9. 行かなくても ○ワザワ「ザ」 {①イカン「デ」ン<老>・<少>②イカン「デ」モ<多>・<全>③イカン「デ」<多>・<全>} ユ「ワ」 ネ カ。

\* ②がよく用いられるが、老年層では①もよく用いられる。③は「行かなくて」。ユワネカは、「いいではないか」に当たる形式。

- 2 0. 行かなければ ○ワザワ「ザ」 {①イカンニャケ「リャ」<老>・<少>②イカンケ「リャ」<全>・<多>} ヨカッ「タ」 コチ「ネ」ー。

\*①と②では老若で使用上の差があり、②はむしろ若年層の使用が目立つ。

21. 行かねば ○ドシ「テ」ン {①イカン「ニャ」 イ「カ」ン トジャ「ド」ン。  
＜老＞②イカ ナ「ラ」ン ガネ。＜若＞③イカン「ナ」 ナ「ラ」ン。＜若＞}

\*前項同様、①と②で老若で使用に差がある。③は、若年層のみ使用。

22. 行かねばならない ①ドシ「テ」ン コシ「テ」ン イカン「ニャ」 ナラン 「ト  
」ジャ。＜老＞・＜少＞/②イカンケ「リャ」 イ「カ」ン ト。＜若＞・＜多  
>

\*イカンニャは、老年層に使用が限定される。

23. ～ズ（ヤ・ジャ・タ） ○キョー「ワ」 ドキ「モ」 {①イ「カ」ン トジャ。  
＜老＞②イ「カ」ン トヤ。＜若＞}

\*老年層で①、若年層で②。同様に断定の助動詞においても「ジャ」（老）、「ヤ」（若）という傾向がある。

24. 行きもせず ○コッチ「カ」イ イッモ「セ」ン、ムコ「カ」イ {①キ「モ」  
セン＜老＞。②キ「ヤ」 セン。＜老＞③「コ」ン。＜若＞・＜多>}

\*若年層では、専らコンを使用する。

25. 行くか行かないかわからない ○ソノ ヒトン ウチ「ー」 イッ「カ」 イカン  
「カ」 ワカ「ラ」ン。＜全＞・＜多>

26. 無い ○スカン ナエ「ワ」 (=西瓜の苗は) コシコーシカ {①ネー「ド。  
＜全＞②「ネ」ーネ「ー。＜全＞}

\*老若を問わず、原則として連母音aiは融合してeとなる。

27. 無い ○コトシノヨ「ナ」 ヌキ ト「シャ」 「ネ」ー ネ「ー。＜全＞・＜多>  
\*ヌキは、「ぬくい」。当地では「暑い」を使うことはない。

28. ありはしない ○コトシノヨ「ナ」 ヌキ ト「シャ」 {①アイ モンジャ「ネ  
」ー ネ「ー。＜老＞・＜多>②「ネ」ー ネ「ー。＜若＞・＜多>}

\*アイモンジャネーネーは、「あるものではないねー」の意味。若年層では、「あるものではない」に当たる形式がなく、専らネー（ない）を使用する。

29. 無かった ○コトシノヨ「ナ」 ヌキ ト「シャ」 ネカッ「タ」 ネ。＜全＞・  
＜多>

30. ありはしなかった ○コトシノヨ「ナ」 ヌキ ト「シャ」 {①アイ モン「ジ  
ャ」 ネカッ「タ。＜老＞②ネカッ「タ」 ネ。＜若>}

\*28.と同様、若年層では②のみ使用。

31. 無いだろう ○コトシノヨ「ナ」 ヌキ ト「シャ」 {①ネージャロ「ー。＜老  
>・＜多>②ネーヤロ「ー。＜若>}

\*①は全年層で使われるとすべきか。②はむしろ若年層に限定されるといえよう。

32. 無ければ ○ヌキ ナツナン「カ」 {①ナカ「レ」バ ヨ「カ」ッ。＜老>②ナケ

「リャ」 イ「ー。〈若〉・〈多〉}

\*ヨカとイーが老若で対立する。

33. 暑くない ○キョー「ワ」 アンマ「イ」 {①ヌク「ネ」ー ネ。〈老〉・〈多〉  
>②ア「ツ」ク ネー。〈若〉・〈多〉}

\*①と②には世代差がある。

34. 暑くはない ○キョー「ワ」 アンマ「イ」 {①ヌクワ 「ネ」ー ネ。②ヌク  
ク「ワ」 ネー。〈若〉・〈多〉}

\*音便形(ヌクワ)と非音便形(ヌククワ)の対立が老若間に認められる。

35. 暑くなかった ①キョー「ワ」 アンマ「イ」 ヌクネカッ「タ。〈老〉/②キョ  
ー「ワ」 アンマ「イ」 アツクネカッ「タ。〈若〉・〈多〉③ヌ「キ」ク ネ  
カッ「タ。〈若〉}

\*ここにも世代対立が明瞭である。

36. 暑くはなかった ○キョー「ワ」 アンマ「イ」 {①ヌク「ワ」 ネカッ「タ。  
〈老〉・〈多〉②ヌキク「ワ」 ネカッ「タ。〈若〉}

\*②の形式が若年層を中心に用いられ出している。

37. 暑くないだろう ○アシタ「モ」 {①ヌク「ネ」ド。〈全〉・〈多〉/②ヌク  
「ワ」 ネカ「ロ。〈老〉・〈少〉/③アツ「ク」 ネーヤロ。〈若〉}

\*①・②は若年層ではほとんど用いられない。

38. 涼しくない ○キョー「ワ」 アンマ「イ」 {①スズシュ「ネ」ー。〈老〉②スズ  
シ「ク」 ネー。〈若〉}

\*若年層では、ウ音便形の使用を嫌いつつある。

39. にぎやかでない ○アンマ「イ」 {①ニギヤコ「ネ」ー。〈老〉②ニギヤコ「ネ  
」ー。〈老〉③ニギヤ「カ」ヤ ネー。〈若〉}

\*若年層では、①・②の使用が認められない。

40. にぎやかではない ○アンマ「イ」 {①ニギヤコワ 「ネ」ー。②ニギヤコワ  
「ネ」ー。③ニギヤ「カ」ジャ ネー。〈若〉・〈多〉}

\*39の若年層の結果との差に注目。ヤネー、ジャーネーが使い分けられる。

41. にぎやかでなかった ○アンマ「イ」 {①ニギヤ「コ」 ネカッ「タ。〈老〉②ニ  
ギヤ「コ」 ネカッ「タ。〈老〉③ニギヤ「カ」ヤ ネカッ「タ。〈若〉}

\*①・②は、若年層で使用されない。

42. にぎやかではなかった ○アンマ「イ」 {①ニギヤコ「ワ」 ネカッ「タ。〈老〉  
②ニギヤコ「ワ」 ネカッ「タ。〈老〉③ニギヤ「カ」ジャ ネカッ「タ。〈  
若〉}

\*①・②は若年層では使用されない。41の若年層の結果との差に注目。

43. にぎやかではなからう ○マエンヨ「ニ」 {①ニギヤコ「ワ」 ネカ「ロ。〈老〉

②ニギヤコ「ワ」 ネカ「ロ。<老>③ニギヤ「カ」ジャ ネーヤロ。<若>

\*①・②の使用は若年層では認められない。

44. 花ではない ①アンヤ「タ」 ハナジャ「ネ」ー ガ。<全>

\*とりわけ、世代差は認められない。

45. だめだ ○①ソゲ「ナ」 コ「ツ」 ナン「ボ」 ヤッ「テ」ン イ「カ」ン ガ  
「ネ。<老>/②ソゲナ コ「ツ」 ドヒ「コ」 ヤッ「テ」ン イ「カ」ン  
「ヨ。<老>/③ダ「メ」ヤ。<若>

\*イカンの使用は、若年層には認められない。

46. だめな ①アン ヤッ「ア」 ヤッシェン「ボ」ジャ。<老>/②アン ヤッ  
「ア」 ダメヤッ 「ド。<若>

\*老年層では、ダメの使用は認められない。

47. つまらない ①ツマ「ラ」ン コ「ツ」 ユー「ト」 イ「カ」ン ド。<老>/②  
ツ「マ」ンネー コト ユー「ナ。<若>

48. いけない ○{①イッ「ト」<老> ②イク「ト」<全>③イッ「チャ」<若>}  
イ「カ」ン ド。

\*①と③では、老若対立が明瞭である。

49. 行カレン ①ソゲ「ナ」 ト「キ」ー イカ ナ「ラ」ン ド。<老>/②ソン  
「ナ」 トコ「ー イッ「チャ」 イ「カ」ン。<若>

\*若年層には、①が用いられない。

50. 行くな ①イッ「ナ。<老>/②イッ「メ」 ド<老>。③「イン」ナ。<若>

\*①～③ともに強い禁止を表す。②は「行くまいぞ」の意味。①と③の老若対立に注意。

51. するな ①ワリ コ「ト」 スン「ナ。<全>・<多>/②ワリ コ「ト」 ス  
ッ「ト」 イ「カ」ン ド。<老>

\*①が一般的である。②は老年層のみに限定される。

52. 行くもんじゃない ①ソゲ「ナ」 ト「キ」ー イッ モンジャ「ネ」 ド。<  
老>②ソン「ナ」 ト「コ」 イク モノ「ジャ」 ネー。<若>

\*①の声門閉鎖音は、中若年層では全く認められないといってよい。

53. たまらない ○キョー「ワ」 {①ヌ「ク」シ <全>・<多>②ヌ「キ」テ<若  
>} タマ「ラ」ン。

\*ヌクシは老年層のみ使用される。若年層では、ヌキテを専用する。

54. しかたがない ○ア「メ」ン ヤム「ト」 マッチョッテ「モ」 {①シカタガ  
「ネ」ー。<全>・<多>②ショーガ「ネ」ー。<全>・<多>}

\*①・②共によく用いられ、世代差はない。

55. 楽ではない ○トーン「ド」ィ アユン「デ」 イク コ「タ」 {①ダッ「ナ」 コ

ッジャ「ネ」ド。〈老〉②ラクジャ「ネ」ド。〈全〉}

\*①は老年層に限定されるが、②は全世代で用いられる。トーンディアユンデは、「遠くまで歩いて」の意味。

56. 歩きたくない ①トーン「ド」ィ アユ「モ」ゴ「タ」ー「ネ。〈老〉/②アルキタク「ネ」ー。〈若〉

\*若年層ではアユム(歩く)を用いない。

57. 大丈夫だ ○シンパ「イ」セン「デ」{①ダイ「ジョ」ブジャ「ガ。〈老〉②ヨカ「ド。〈老〉③ダイ「ジョ」ブヤロ。〈若〉}

\*「大丈夫だ」の場合も、ジャ・ヤの対立が老若で認められる。

58. いや ①イン「ニャ」フランジャッ「タ。〈老〉/②ン「ニャ。フ「ラ」ンカッタ。〈若〉

\*①は若年層では使用されない。専らンニャのみ。老年層のインニャは、次のンニャ比してやや弱い否定であるとの説明があった。

59. いや(強い否定) ①ン「ニャー。フ「ラ」ンジャッタ。〈老〉/②ン「ニャ。フ「ラ」ンカッタ。〈若〉

\*若年層では、この場合、強い否定を表すという説明を受けた。

60. いいえ ○イ「ヤー。{①フリモー「サ」ンジャッ「タ。〈目上〉・〈老〉②フリマ「セ」ンデシタ。〈全〉・〈多〉}

\*ここの応答詞は、老若共通。①の形式はほぼ古老層に限定される。若年層を中心に全年層で②が多用される。

61. いや(否定問いかけに対する応答)

①降った場合 ○ンー。フッ「タ。〈全〉

②降らなかった場合 ○{①イン「ニャー。(弱)・〈老〉②ン「ニャー。(強)・〈老〉}フ「ラ」ジャッ「タ。

\*老年層では、①と②に使い分けがある。

62. どういたしまして ○イー「ヤ」モー。〈老〉

\*老年層のみに使用される。若年層の使用されない。

63. できない ○ソゲ「ナ」コ「タ」ー {①デ「ケ」ン「ド。〈老〉・デ「キ」ン。〈若〉}

\*但し、当地では地域差があり、①でも地域によっては若年層での使用が認められるという報告を受けた。

64. 読むことができない(状況) ①ヨ「マ」ナ「ラ」ン。(古)・〈老〉/②ヨン「ガ」ナ「ラ」ン。(新)・〈老〉/③ヨ「メ」ン。〈若〉

\*老年層の形式には、①と②の二つがあるが、①が古く、②は新しいという説明があった。若年層では、両方とも使われず、③を用いる。

65. 読むことができない(能力) ①ヨ「マ」 ナ「ラ」ン。(古)・<老>/②ヨン  
「ガ」 ナ「ラ」ン。(新)・<老>③ヨ「メ」ン。<若>

\*ここでも老年層では二つの形式が認められた。①が②より古い。若年層は③を専用。状況可能・能力可能の使い分けは老若共、ないものと思われる。

66. 出られない ①コゲ「ナ」 ガンタ「レ」 フク「オ」 キ「テ」 マ「チ」 デ  
「ガ」 ナ「ラ」ン。<老>/②マ「チ」 デ「レ」ン。<若>

\*①の形式は若年層では用いない。

67. 食べられない ①ク「ガ」 ナ「ラ」ン。(新)・<老>/②ク「ワ」 ナ「ラ」  
ン。(古)・<老>/③ク「エ」ン。<若>

\*その他「食える物か」に対して、ク「ガ」 ナイ「モ」ンカ。<老>  
という形式もあるが、これは「食うことができない」にあたるものと思  
われる。

68. 食べることができない ○イソガシ「カ」イ ヒツメシ「モ」 {①クイ「ガ」  
ナ「ラ」ン<老>②ク「エ」ン<若>}

\*67の①の形式との差に注目。

69. おれが知るものか ○ソゲ「ナ」 コ「タ」 オ「ラ」 {①シッチョ「イ」 モン  
「カ。<多>・<老>/②シー モン 「カ。<少>・<老>③シツ「カ。<若  
>}

\*①が普段よく使われるが、これは「知っているものか」に当たる。②は、ほとんど  
普段使われることが少ないが、「知るものか」に当たる。

70. 誰が行くものか ①ソゲ「ナ」 ト「キャ」 ダイ「ガ」 イツ 「ム」ン カ。  
<老>/②ソンナ ト「コ」エ ダレ「ガ」 イツ「カ。<若>

\*①は若年層での使用は認められない。

71. なんて行くか(行くものか) ○ソゲ「ナ」 ト「キャ」 ナンゴ「チ」 イツ  
「カ。<全>

\*若年層ではアクセントが異なるという説明を受けた。若年層のアクセントは、「イ  
ツ」カとなる。イツ「カ」となると、疑問の意味(厳密に言うと、ここではア  
クセントというより疑問のイントネーション)になるという。

72. なんて恥ずかしいものか(なんて恥ずかしいかろうか) ○ナン「ガ」 {①ハッ  
カシ 「カ。<老>②ハズカ「シ」ー カ。<若>}

73. 行かないでおるものか(いくとも!) ○ドシ「テ」ン コシ「テ」ン イク  
「ド。<全>

\*老若を問わず、この形式が使われる。

74. やれるか ○ソゲナ 「モ」ン オマエ「ニ」 {①ヤイ ガ「ナ。<老>②ヤイ  
「ガ」 ナイ 「カ。<老>③ヤ「レ」ッ カ。<若>}



\*①・②ともに若年層には使用されない。

75. シテイラン ○ソゲニ イ「ヤ」ジャカ「イ」 モー {①セン「デ」 ヨ「カ」。  
<全>・<多>②セン「デ」 イ「ー」.<若>

\*若年層でも、ヨカを用いないことはないが、イーを多用するという説明を受けた。

76. 少しもはかどらない(少しも～ない) ○ヌクシ「テ」 シゴト「ガ」 ヒトッ  
「モ」 ハカド「ラ」ン.<全>

\*特に、老若の対立はない。

77. ぜんぜんできない(ぜんぜん～ない) ○シゴト「ガ」 ヒトッ「モ」 デ「キ」  
ン.<全>

78. いっこうに降らない(いっこうに～ない) ○①アメ「ガ」 イッコ「ー」 フ  
「ラ」ン ガネ.<全>/②アメ「ガ」 ヒトッ「モ」 フラ「ジ」 ネ.<老>

\*②の形式、～ジは若年層では用いられない。

79. あまり降らない(あまり～ない) <→33・37・……> コトシ「モ」 アメ「ガ」  
「ン」 アンマ「イ」 フ「ラ」ン ガネ.<全>

80. (予想外に)たくさん ○①イモ「ガ」 ドッサ「イ」 トレ「タ」.<全>/②イ  
モガ タクサ「ン」 アッ「タ」 ネー.<老>③イモ「ガ」 モ「ロ」 ト  
「レ」タ.<若>

\*老若ともにドッサリではなく、ドッサイである。

81. いいではないか ○ワザワ「ザ」 イカン「デ」 {①ユ「ワ」 ネ 「カ」.<老>  
②「イ」ンヤー 「カ」.<若>

\*若年層では①の使用は認められない。

82. いいのではないか ○ワザワ「ザ」 イカン「デ」 {①ユ「ワ」 ネ 「カ」.<  
老>②「イ」ンヤー ネー 「カ」.<若>}

\*①・②は世代対立がはっきりとしている。

83. いいかもしれない ○ワザワ「ザ」 イカン「デ」 {①ヨカ「カ」ン<老>/②「イ」  
「ー」カ「ン」 シ「レ」ン.<若>}

\*ヨカとイーとの世代対立が認められる。

84. 行かないか ①イッド「キ」 イ「カ」ン 「カ」./<老>②イッショ「ニ」 イカ  
ン 「カ」.<若>

\*特に世代対立はないが、イッドキ(老)、イッショニ(若)という対立がある。

85. くれぬか ①コン 「ト」ウ モッ 「ク」レン 「カ」.<老>/②モッ「テ」  
クレー「ン」.<若>

\*①の形式は若年層では用いられない。

86. くれませんか ①コン 「ト」ウ モッ 「ク」イハン 「カ」.<老>/②モッ

「テ」 クダサイマセン 「カ。＜若＞

\* 若年層では①の形式は用いられない。共通語形式のみを使用する。

87. 下さいませんか ○コン 「ト」ン {①モツ タ「モ」サン カ。＜老＞②モツ  
タ「モ」ハン カ。＜老＞③モツ「テ」 クレマセン 「カ。＜若＞ }

\* ①・②は老年層のみ使用される。

88. 行かないと(～行けば)(勸奨) ○ハヨ {①イカン「ニャ」ー。＜老＞②イカ  
ン「ト。＜全＞③イカン「ナ。＜全＞}

\* ①の形式は老年層に限定されるが、②・③は全年層で使用される。

### Ⅲ. 総括

都城方言は、宮崎市方言を中心とする日向方言よりもむしろ鹿児島市方言を中心とした薩隅方言的色彩が濃い。今回、取り扱った否定表現においても、鹿児島方言的特色が随所に認められた。例えば、「3. 行きません」にあたるイッモハン、イキモーサン、「8. 行くまい」、「9. 出まい」にあたるイッメ、デーメ、「12. (雨が)降るに違いない」にあたるフッド、「52. 行くもんじゃない」のイッモンジャネド、不可能表現「64. 65. 読むことができない」のヨマナラン、「65. 出られない」のデガナラン、「67. 68. 食べられない」のクガナラン・クワナラン等、枚挙に遑がない。宮崎市の人々も都城方言は薩摩弁であるという意識を持っている。

このような特色も老年層にいえることであって、上にみたように若年層の形式は老年層のそれと大きく変化してきている。若年層の形式では、鹿児島的というよりもむしろ宮崎市の若年層に近くなってきていると思われる。

事実、今回、言及はできなかったが、当地の老若の対立は、ここにみた否定表現の他に、アクセント変化(尾高一型アクセントから無アクセントへ)、音韻変化(シラビーム方言からモーラ方言へ)等といった根幹的变化へと進んできているといえる。

(きしえ しんすけ 宮崎国際大学)